

市長賞

(中学生の部)

「どうしたらいじめをへらせるのか」

岸和田市立久米田中学校1年 釜下 ころろ さん

人はみんな見た目も考え方も違って、好きな人、苦手な人、嫌いな人、気の合う人はもちろん誰にでもいると思います。私にもいます。

小学四年生の時、朝いつも通りに登校して友達に「おはよう」と言っても無視されたり、話しかけても知らないふりをされたとき悲しい気持ちになりました。他にもドッキリでさけられたりされることもありました。いくらドッキリだったとしても嫌だったことに変わりはありませんでした。小学校の時に授業で先生が私たちに「この白い紙に悪口を言って」と言いました。みんな次々に言っていき一つ悪口を言うごとに、先生は紙をグチャつとにぎりつぶしていったので、グチャグチャになってしまいました。次に先生は「この紙にあやまって」と言いました。そうすると次はみんな紙に向かって「ごめんね」と言い、一人があやまるごとに白い紙をだんだんと広げていきました。そして先生は私たちに「この白い紙は元に戻りましたか？」と質問しました。その質問に、「元通りに戻った」と言った人は誰一人もいませんでした。その理由は紙を広げただけで、最初のシワ一つもない紙には戻ることができなかったからです。先生は「人の心も同じで悪口を一度言ってしまったり、傷つける行為をしてしまうと、あやまってもその人の心にできた傷はグチャグチャになったシワのできた紙のようになくならない。人を傷つける行為や言動は決してしてはならないんだよ」と言いました。他にも先生は、悪口を言っている人に対して相づちを打つことや、黙認することも同じように「いじめ」につながる行為だよと教えてくれました。また勇気を出して、「そんなことしたらダメだよ。私は一緒にしたくないよ」と言えることが大切だよと教えてくれました。この時、私は改めて悪口を言ったり、無視したりする行為は、人を傷つけることで、自分もされたくないし、人にもしたくないと思いました。私は良くないと分かっているけど、友達が誰かの文句を言ってきた時に、相手の顔色をうかがって、相づちを打ってしまったり、一緒になって文句を言ってしまっていたこともありました。本当はやってはいけないことと分かっているけど、実際に正しい行動をする勇気がでなかったからです。でも、初めに書いたように、私自身、かげで文句を言われたり、さけられたりつらい経験があるからこそ、これから相手の気持ちもよく考えて意識して、正しい行動に移せる強い人間になりたいと思っています。

見た目も考え方もみんな違う、「みんなちがってみんないい！」一人一人が個性を認め合って、一人一人が意識をして行動すれば、少しずつでもいじめのない社会へつながっていくのだと信じて、これからも人と関わっていきたいです。